

【草花の部屋】

ウマゴヤシ (マメ科ウマゴヤシ属 *Medicago polymorpha*)

和名 : ウマゴヤシ(馬肥、苜蓿)

別名 : 唐草(からくさ)、特牛肥やし(コットイゴヤシ) **英名** : Toothed medick

マメ目 越年草

原産地 : ヨーロッパ

花言葉 : 陽気な性格、朗らかさ

花色 : 黄色



← 写真-1 ウマゴヤシ

撮影日 : 2018年2月21日

撮影場所 : コインブラ

(ポルトガル)にて

撮影者 : M さん

↓ 写真-2 ウマゴヤシの花

撮影日 : 2018年2月21日

撮影場所 : コインブラ

(ポルトガル)にて

撮影者 : M さん



↑ 写真-3 ウマゴヤシの葉

撮影日 : 2018年2月21日

撮影場所 : コインブラ(ポルトガル)にて

撮影者 : M さん



ポルトガルの中部に位置するコインブラの街を訪れた際、昼食に立ち寄ったレストランの中庭散策中に見かけました。

江戸時代に牧草として渡来した帰化植物で、広く全国で観られる植物です。海岸に近い道端や空き地、牧場周辺などに生えています。

全体にほぼ無毛、茎は分枝して地を這うか斜上します。葉は3出複葉で、小葉は倒心臟形～倒卵形。葉縁は不規則に細裂し、托葉はクシ状に深裂します。3月から5月ごろ、葉腋の花序(総状花序)に、黄色の蝶形花を咲かせ、種子は豆果で、やや扁平な腎形です。黄褐色で頭に平らな切り欠きがあり、螺旋状に丸まり、縁に刺があります。

飼料としてウマに与えると肥えるということから、ウマゴヤシ(馬肥し)という和名がついたそうです。また、果実の縁に沿って、いが(bur)のような刺(とげ)があるので一般にバークローバーとも呼ばれるそうです。寒さに弱く、暖地で水田の裏作に栽培されます。秋の稲刈り後すぐに種子をまき、春に田に鋤き込んで緑肥にします。若葉は食用とし、飼料としては、青刈りして家畜に与えるほか、乾草やサイレージにもされます。

散策した中庭は、「涙の館」と呼ばれ、14世紀に起きた国王の息子と政略結婚相手の王女の侍女との悲恋物語の舞台だそうです。また、ポルトガルにはコインブラ・ファドとリスボン・ファドがあります。コインブラ・ファドのファディスタ(歌手)は男性。リスボン・ファドでは女性だそうです。ファドはポルトガルに生まれた民族歌謡。ファドとは運命、宿命を意味し、このような意味の言葉で自分たちの民族歌謡を表すのは珍しいそうです。レストランなどで歌われる大衆歌謡で、日本の演歌に相当するとか・・・。

< ちょっと一言 >

*サイレージ(silage)

牧草や飼料作物など高水分の飼料を適度な水分を保ったまま密封し、乳酸発酵を主とする嫌氣的発酵(サイレージ発酵)を行うことで貯蔵性を高めた飼料のこと。